

協 会員連携システム構築

協 総会 担い手不足解消へ一石

JERコンクリート補

改修協会(佐藤匡良会長)は1日、都内で令和6年度総会を開催。人手不足解消に向けた会員企業間の全国的なマッチングシステムの運用、コンクリート防食技術士資格者の育

成・増強などを盛り込んだ令和6年度事業計画案を審議し、全会一致で承認した。

今年度は下水道を中心としつつ、他分野の防食ニーズの取り込みに向け各種展示会事業への出展PRに注力。会員各企業の担い手不足(施工管理者・作業員)解消を目的に、会員企業間で人材を融通し合うマッチングシステムの運用に取り組む。また、例年同様にコンクリート防食技術士資格の取得奨励・取得支援を通じた会員企業の施工品質・管理能力の底上げを図っていく。同技術士の市



佐藤会長

場啓発活動として、ゼネコン、プラントメーカー、コンサルタント、発注者向けの技術研修会を全国で企画・開催する。

施工面積・施工件数上位会社を表彰する制度では、施工面積部門でレジンワーク、仙嶺、トクシユ、シゲル・コーポレーション、フクタカ工業を、施工件数部門でオフィス・テクノ、宮縄、滋賀コンクリートエンジニアリング、ダイヤモンド止水接着工業、レジンワーク東京支店が表彰された。

総会あいさつで佐藤会長は、原材料費、燃料費が値上がりし高止まり状況のほか、4月から物流2024年問題への対応などに直面し、こうした厳しい事業環境を乗り越えるためには、協会本部

会員企業で共に手を取り合いながら受注活動の競争を勝ち残る必要があると言及。防食団体トップ水準の技術者層を抱え、提案技術の厚みを武器に営業提案に注力していく方針を述べた。昨今、建設業全般で取り沙汰されている担い手不足問題の解消に向けて、会員企業間で人材を融通し合う会員マッチングシステムの

運用を進めていくことにも言及した。